

米子城跡、応急措置置急ぐ

へり使いい石垣補強

崩落恐れ全山立ち入り禁止

県西部地域で石垣が崩れが調査。市は直に消防防災 跡の山頂(高さ九十七メートル)に米子市指定文化財「米子」へりコンターの比動を監視し、土のうを天守閣跡の山頂に置いて固定し



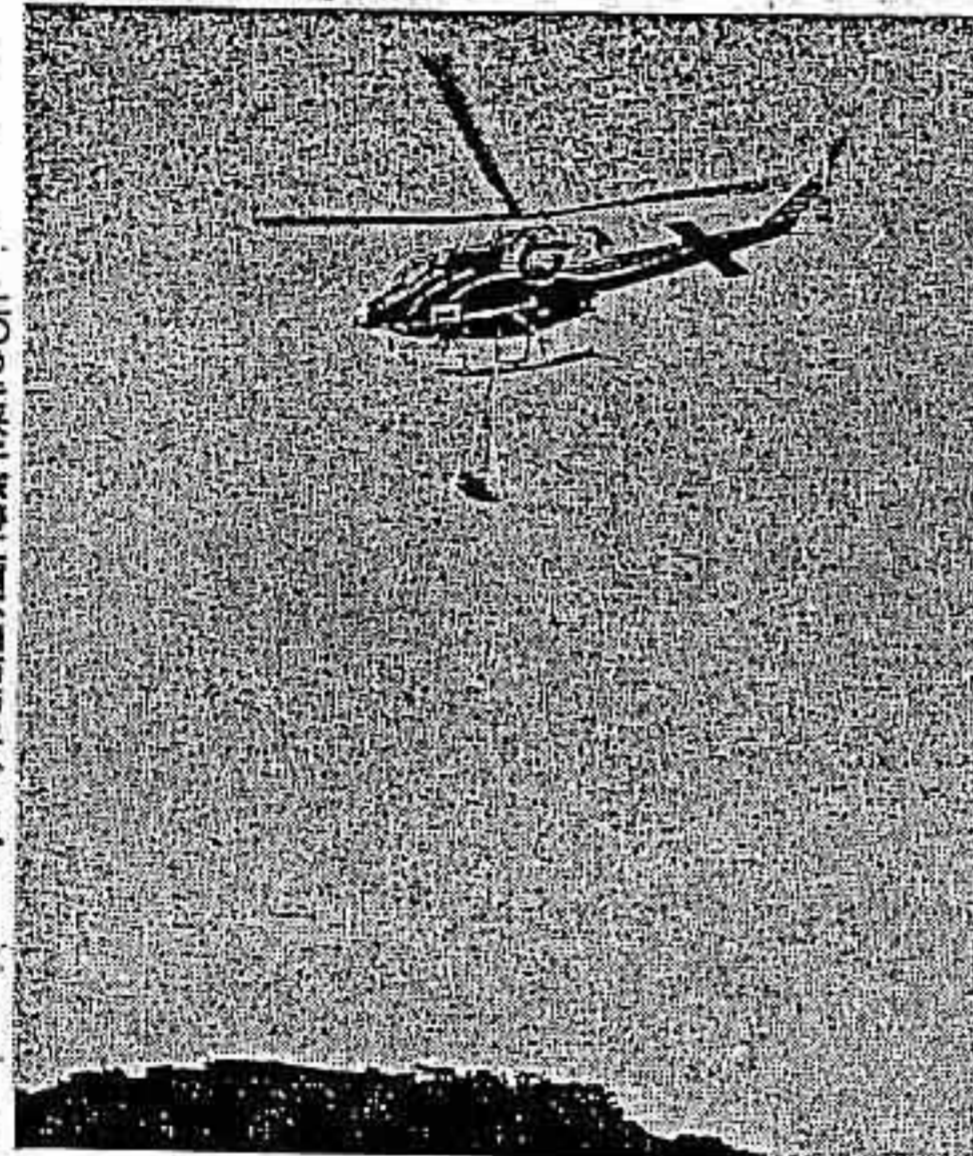
石垣が崩らみ、崩落寸前の米子城跡を調査する市教委職員(米子城天守閣跡で)

た。崩れたのは本丸の西側。高さ、幅とも約五メートルが崩落している。三十七度角の石が約百メートルにわたって転がり落ちており、市は全山立ち入り禁止にした。

このほか、本丸や内丸の石垣が崩れやんでいる箇所も数か所あり、本丸では石垣上部の土に亀裂が入っている。このため、市は二次災害の恐れもあるとして応急措置を講じ、同日午後、消防防災ヘリコプターに土のう運搬の応援を求めた。

米子城は一六〇〇年(慶長五)、中村一忠が築城。五重天守と四重櫓を持つ威容を誇ったが開藩以後の一八七八年(明治十)ごろに解体され、現在は城郭が残っている。石垣は古いタイプの野面積みの特色を持っており、七十七年の文化財に指定され、八八年に修復された。

調査を担当した市教委文化財の小原貴樹課長補佐は「年月を経て、傷んでいた所に今回の地震が襲った。本丸で石垣が不安定になり、余震でダメージを受けたりしている」と話していた。



土のうを米子城跡に運ぶ消防防災ヘリコプター(16日午後2時25分、米子市瀬町で)



道具や壊れた一審蔵の被害状況を調査する文化庁の清水主任文化財調査官(米子市の後藤家住宅で)

文化庁が重文住宅調査

「後藤家は部分解体必要」

県西部地域で被害を受け「門脇家住宅」(大山町)と「田沼家住宅」(米子市内町)が指定の重要文化財。後藤家の調査は、文化庁文化財保護部遺物課の清水真一主任文化財調査官が、両家を調査した。

江戸時代の回船問屋だった後藤家住宅では、商家の面影を残す主屋の障子が損壊し、一番蔵の土壁の崩落やひび割れ、東側の土庫(約三・六メートル)が崩れた。大正屋を移めた旧家の裏住宅も、土蔵のひび割れや壁がはがれ落ちるなどの被害が目立った。清水調査官は酒造問屋を営んでくると、後藤家の調査や材料運搬、田の補助金分配のサポートをするため現場を訪れた。

後藤家住宅を見て回った清水調査官は「被害が一方

「心のケア」を研修

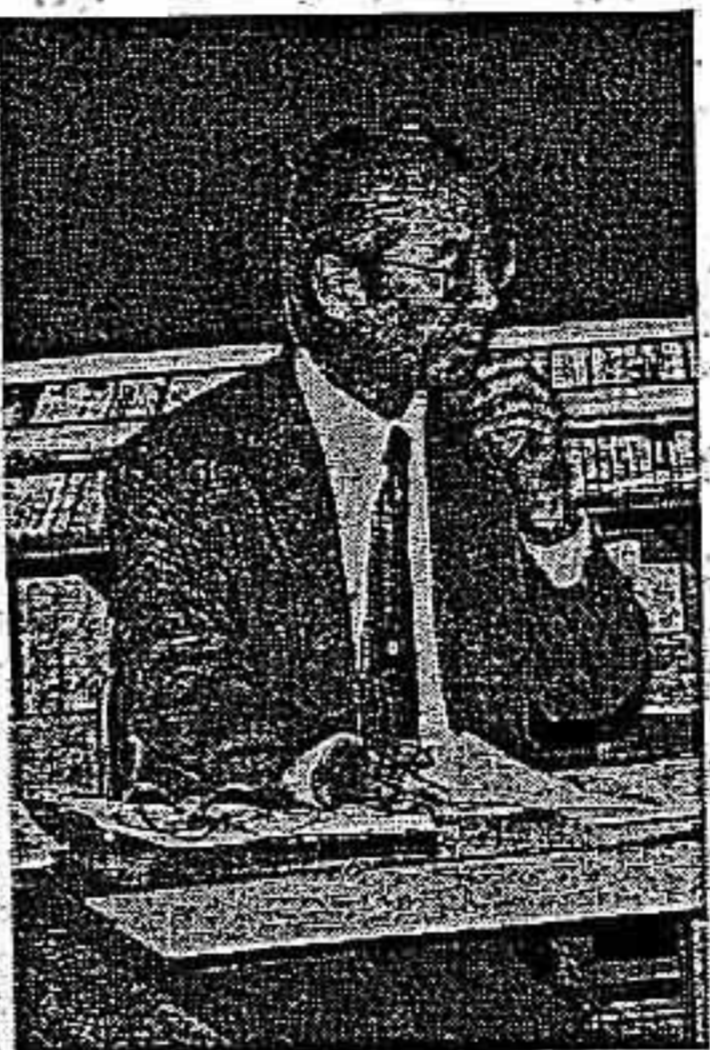
被災地域の教員17人

日野

日本海
12/18

鳥取県教委は十七日、震災で心に痛手を負った児童、生徒たちが一日も早く立ち直ることを目指し、日野郡内の小中高校十六校の教員十七人を日野町野田の日野中学校（森田勝彦校長）に集めて「心のケア」に関する研修会を開いた。

床心理士を同中学校に常駐させる予定。



児童や生徒の「心のケア」について講演する臨床心理士の落合氏

「効果も強調した。県教委は引き続き、臨

県教委によると、県西部地区の公立学校で地震による精神不安から学校を欠席している児童、生徒数は十日をピークに減少しており、十六日現在で小学生二人となっている。児童、生徒が悩みを抱えた場合、自ら心理士などの専門家に相談することはまれで、まずは親や学校の教員に相談するケースがほとんど。研修会は、最初の相談相手となる教員が子供たちの悩みにスムーズに対応できるよう開かれた。

十六、十七日の二日間、同校で子供たちの心のケアにあたって鳥取大学医学部の落合潮臨床心理士が講師を務め、各校の状況について教員らと意見交換した。

各校とも子どもたちがおおむね躁（そう）状態だが、小学校低学年でちょっとしたこと友達に当たったり、なかなか泣きやまないなどの事例が報告された。また教員の家が被災していて、被災していない子供との間にギャップが生じているケースもあるという。

落合氏は「体育など言葉以外の手段で自己を表現する活動を積極的に行ってほしい。そうすることで落ち着きが出る」とアドバイスする一方、「地震という同じ恐怖体験をしたことで、きずなが生まれるのでは」とブ

若い力で被災者励まそう

神楽上演など催し多彩

来月4日

鳥取県
西部地震

日野高校生らが「元気の出る会」



「がんばろう日野町・元気の出る会」成功に向け意気上がる生徒たち。日野町黒坂

若い力で被災者に元気を与えよう、と日野産業・日野高校（西弘通校長）の生徒や教職員の有志が十一月四日、「がんばろう日野町・元気の出る会」を同校で開催する。生徒たちは、荒神神楽上演や農作物販売など多彩な催しで被災者を励ますよう、と張り切って準備している。

同校は、県西部地震で二十七日の学園祭の中止を余儀なくされた。学園祭に代わる催しを催そう、と生徒会執行部、教職員や生徒の有志が中心となり二十日、「元気の出る会」の

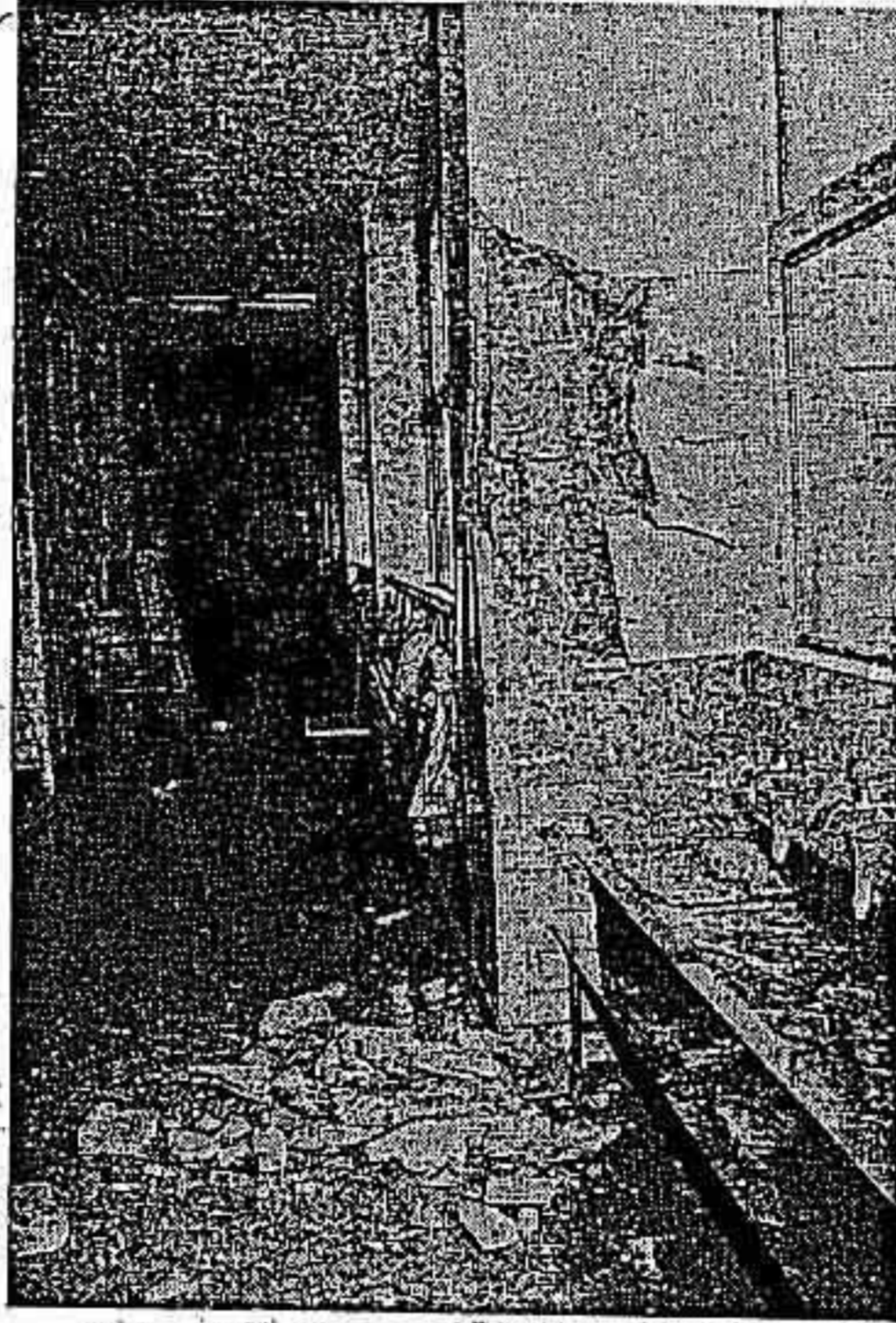
開催を決めた。生徒たちは各催しの担当を決め連日、放課後に準備作業を進めている。

生徒会副会長で産業技術科二年の村上義雄さん（十八）は「被災者に元気を与えたい。笑い声のあふれる会にしたい」と意気込む。同科三年の佐伯まいさん（十七）は「学園祭が中止になったのは残念。手作りの豚汁を作るので、多くの人が来てほしい」と話した。同会は、正午から同校中庭でスタート、豚汁・焼き芋の無料提供や模擬店、カラオケ大会などがある。

また、フリーマーケットに出す物品提供を広く募集。収益金は町に寄付し、被災者の支援に役立てる。問い合わせは同校（電話0866-74-0011）。また、ホームページ（http://www.toriko.ed.jp/hinosan-h）の詳細な内容を掲載している。

県西部地震で柱に亀裂

会見小 南側建て替へ



柱に大きな亀裂が入り、壁面が崩れた会見小学校

会見町は三十日まで、学校（原光太郎校長、二百十人）の南側校舎を建て替える方針を固めた。未までの完成を目指す。

建て替えるのは二棟ある校舎のうち主要部分の南側校舎。同校舎は昭和四十、四十一年度に建設され、鉄筋コンクリート三階建て延べ二千七平方メートル。六日の地震では、二階部のほとんどの柱に亀裂が入り、一部ではコンクリート壁が崩れ鉄筋が露出するなどの被害が出た。

地震後、応急危険度判定士が行った診断では要注意の「黄色」と判定されたが、その後、県教委が再調査し、立ち入り禁止の「赤色」と判定し直した。町、町教委は二建て替へなければ危険」との方針を固め、二十日開いた町議会全員協議会で報告した。十四年度末までに現在地に完成させる考え。改築費用は四、五億円と見積もっている。十二月の国の査定を経て、最終決定する。

同小では授業を再開した十二日までに、南側校舎にあった一般教室の机やイスなどを被害がなかった北側校舎に移し、特別教室を一般教室に改装して使っている。しかし、南側校舎と北側校舎の間に架かった二階の渡り廊下を臨時の職員室に使うなど、特別教室は不足しており、現在、敷地内に仮設のプレハブ教室を建設中。また、一部損壊した体育館も近く、補修に入る。

同町の小倉充助役は「補強工事で済むようなものではないとの認識。町としては建て替えるを得ない」と話している。

○復興に向けて



生田町長に売り上げの一部を手渡す西さん(中央)と白根さん(日野町役場で)

「元気の出る会」 売上金から寄付 「復興必ず」と町へ

日野の高校生

日野町黒坂、日野高・日野産高(西弘通校長)は十五日、生徒有志が同高で今

月四日に開いた「元気の出る会」の売上金の一部の十方向を「復興に役立てて」と町に寄付した。

元気の出る会は、生徒会が全校生徒に呼びかけ、県西部地震で中止になった文化祭の代わりに開いた。伝統芸能の荒神神楽を披露し、フリーマーケットで産業技術科の生徒が栽培した青ネギやベーコン、みそなどを格安で販売した。

生徒会長の白根佳奈さんとイベント実行委員長の西ゆかりさんらが役場を訪れ、生田秀正町長に手渡した。白根さんは「イベントを通じ地元の方の明るい笑顔が見られたので、必ず復興できると確信しています」と話していた。

読売新聞 12.11.16

鳥取西部地震

教育関連の被害15億円

249施設 文化財は2億円に

鳥取西部地震の影響で、県内の公立学校や県立体育館など教育関連施設の被害は二百四十九施設で約十五億円、国や県指定の文化財も四十七件のうち判明した十六件で約二億円に上ることが、二十六日までの県教委のまとめで分かった。調査は引き続き行われ、被害額はさらに増える見通し。

公立学校は、幼稚園四園▽小学校七十五校▽中学校二十六校▽高校二十校▽養護学校四校の計百二十九校で十三億五千九百万円の被害。会見町の会見小学校は、二棟ある校舎の棟がひび割れなどの傷みがひどく、溝口町の日光小学校添谷分校の体育館は壁の落下などが激しく、いずれも建て替えられる見込み。県教委は年内にも正確な被害査定を終えたいと考えて、着工は年明けになる。

社会教育・体育施設は県立七、市町村立百の計百七十七施設で一億三千六百万円の被害が出た。

米子市民体育館は玄関などのガラス窓約七十枚が破損、境港市民会館はホール

の天井がゆがみ、各市町村の公民館も外壁のひび割れや駐車場の地割れなどが発生。米子市などの給食センター一九カ所、教員住宅四万二千一十九戸、米子市の米子城跡など市町村指定の十八件でも石垣の亀裂などが確認されているが、被害額は調査中。

「後藤家住宅」など国指定十一件で二億八千万円、土塀の一部がはがれた県の名勝で米子市の「深田氏庭園」など県指定五件で八百二十一万円。米子市の米子城跡など市町村指定の十八件でも石垣の亀裂などが確認されているが、被害額は調査中。

産経新聞 12.10.27

○その他

9割が10分以内に避難

県教委が小、中学校にアンケート

鳥取西部地震が発生した直後、県西部の小・中・養護学校計88校のうち約9割の79校が、地震発生から約10分以内に子供全員の安全を確認し、校庭などへの避難を終えていたことが、県教委の調査で分かった。

今後の防災時の参考にしようとして、県西部教育事務所が管内の小中学校61校、中学校24校、養護学校3校にアンケート調査した。

その結果、小学校の避難完了時間は5分未満が20校、5分程度が24校で、大半の59校が10分程度までに避難を終えたと回答。中学校では、18校が10分程度までと答えた。

子供の帰宅方法（複数回答）については、小学校では、行政防災無線などで呼びかけ、学校で保護者に児童を引き渡す方法が最も多く43校。次いで、教師引率の集団下校が37校で、子供

だけの下校も2校あった。一方、中学校では、子供だけの下校が19校で、保護者に引き渡しは7校だった。
【熊谷 仁志】

毎日新聞 12.12.21

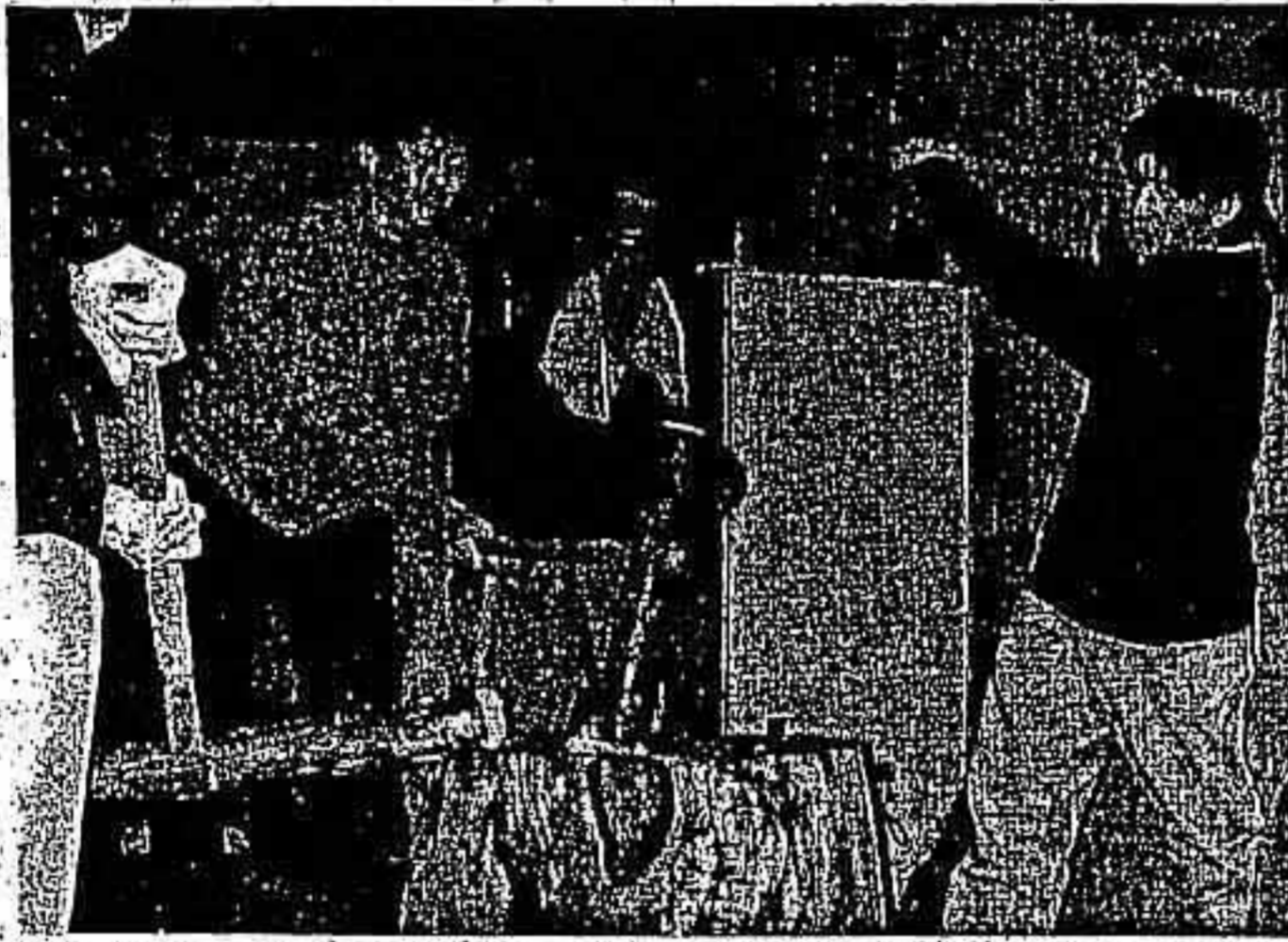
県西部地震

被災者励ます 若者パワー

日野産高生

週末利用し奉仕活動

シート張りなどに奮闘



地区住民と一緒にもちをつく日野産業高校2年の島山俊博君（左から2人目）＝日野町久住、久住農産物加工共同作業所

「若い力で被災者を励ましたい」。日野・日野産業高校の生徒が週末を利用し、地震で被災した日野町内の家庭のシート張りや地区行事に参加するなどの奮闘している。町民は「心強い」「元気が出る」と、若者のパワーをぜひいながら復興への歩みを進めている。

災害ボランティアセンター（同町板根）で被災者の支援に当たる同校の山垣浩功教諭（右）が、授業の中でボランティアの大切さを講義。共感した生徒たちが互いに手を掛け合ひ、十一月中旬からシート張りや地区行事などに参加している。

山中 24

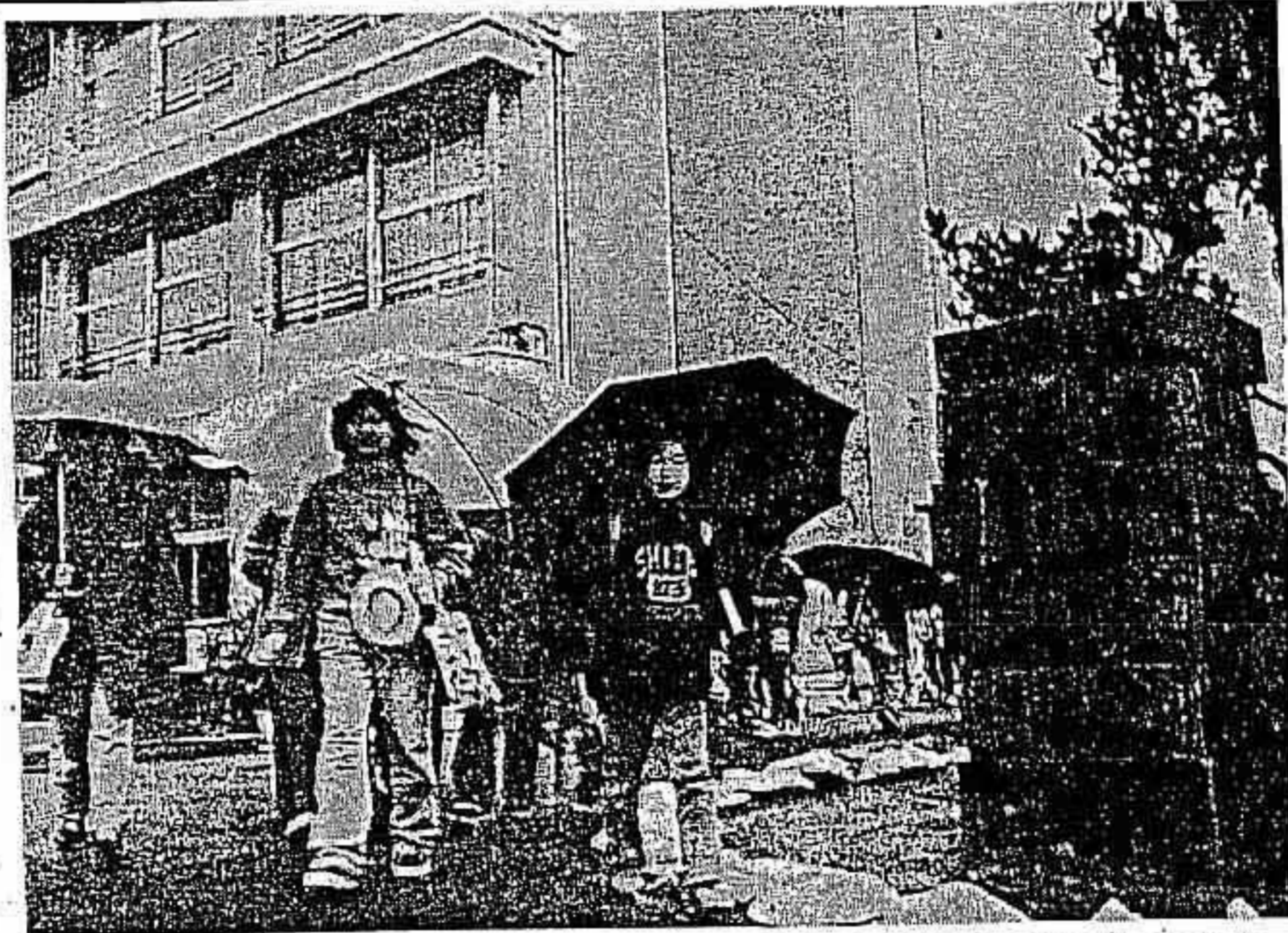
二十三日は、産業技術科二年の島山俊博君（右）が、同町久住の久住農産物加工共同作業所のもちつきに参加。山垣教諭とともに、心を込めてきねをつき、仮設住宅などに配った。また、住民や浜田市から駆けつけた島根県立大学の学生とも交流した。島山君は「自分にも何かができると思う、初めてボランティア」と話した。

山垣教諭は「高校生は高校生活だけの世界にこもりがちになってしまう。ボランティアは人との出会いや社会の仕組み、被災者との交流を通じて勉強するいいチャンス。多くの生徒に参加してほしい」と話した。

震災越えてさあ冬休み

被災の 会見小 崩れた門柱保存へ

朝日新聞 207校で 終業式



県内のほとんどの小、中
学校で二十五日、二学期の
終業式があった。県教委に
よると、一部は二百日に
終わった地域もあり、この
日は小学校百五十三校、中
学校五十四校が式をした。
子どもたちは担任の先生か
ら通知表や冬休みの宿題な
どを受け取り、新世紀を迎
える正月を楽しみにしなが
ら学校を後にした。一部を
除いて、一月九日に一斉に
三学期の始業式がある。
鳥取県西部地震で被災
し、県内の学校で唯一、校
舎一棟と体育館が危険で使
えなくなった会見町宮前の
会見小学校（原光太郎校
長、児童二百十人）は、近
くの屋内テニスコート「あ
いみドーム」で式をした。
原校長は「地震ではつら
い思いでしたが、ボランテ
ィアの中、震災で石組みが
すれたままの門柱わきを通
って終業式の会場に向かう
児童たち―会見町宮前の会
見小学校で

「アにきていたたきそれ以
上の励ましもいたいた」
とあいさつ。各学年の代表
が二学期の思い出を発表
し、三年の梅原悠樹君は
「家が倒れそうになり、お
はあさんがテレビの下敷き
になりかけたが、家もおは
あさんも大丈夫でした」と
話した。
校門の門柱（高さ一・八
メートル、幅八十センチ）は、震災で
石組みが大きくすれたま
ま。町教委は震災のモニタ
メントとして、そのまま現
地保存する方針だ。渡り廊

下に本を並べて仮住まい中
の図書室は、二〇〇二年二
月中にも新たに建つ二棟の
プレハブ仮校舎へ、音楽室
や理科室、コンピュータ
室、家庭科室などを一階に
移転する。

朝日新聞

12.12.26.

